

背景説明

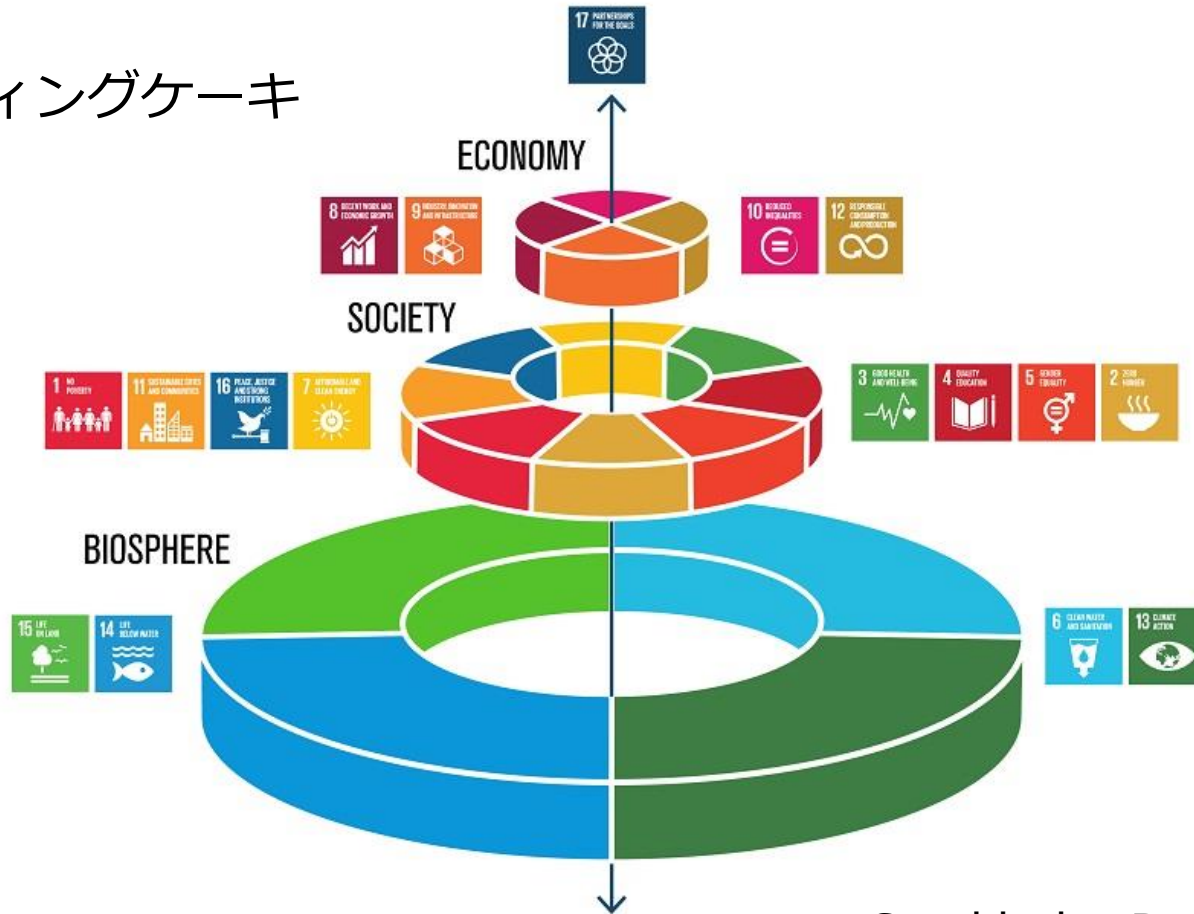
—気候変動と生物多様性との絡み合い—

山野博哉

(国立環境研究所 生物多様性領域)

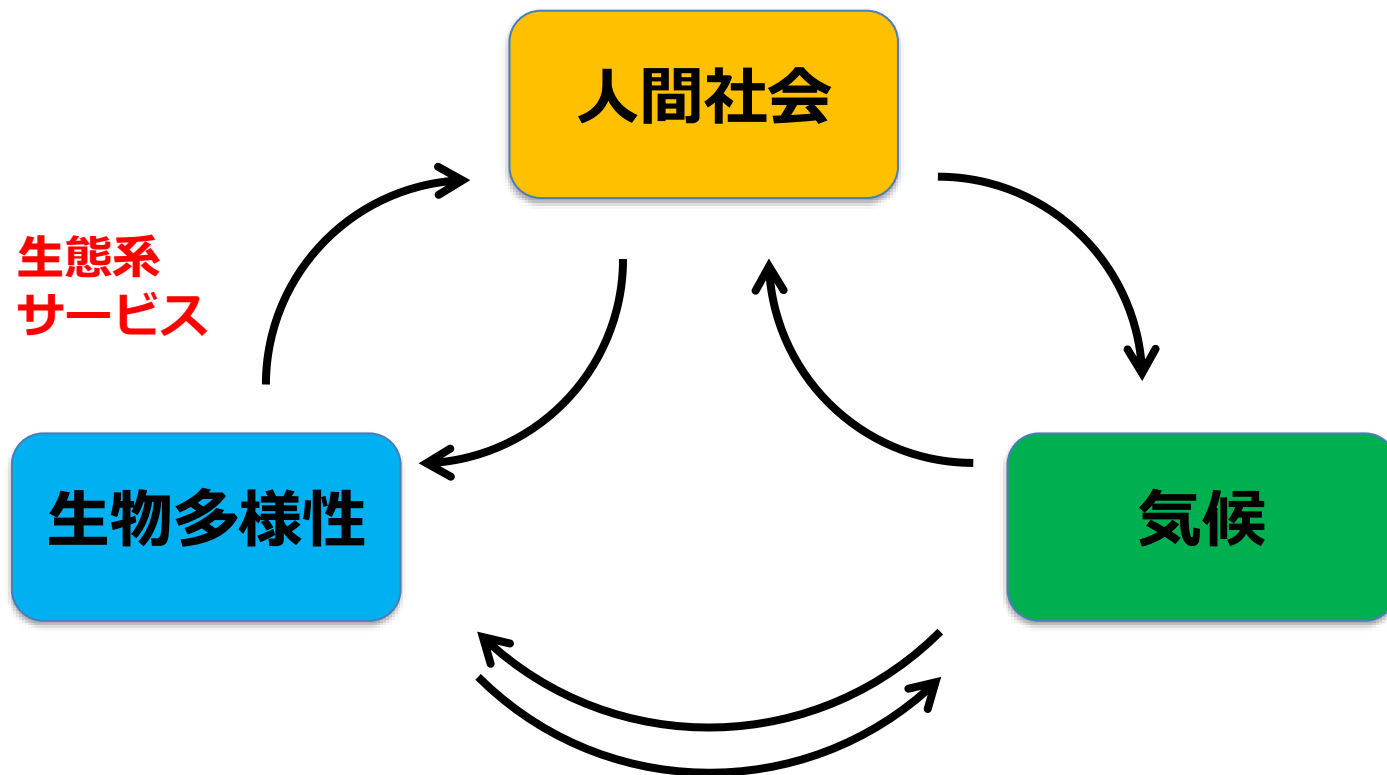
気候と生物圏は、人間社会の基礎

SDGsウェディングケーキ



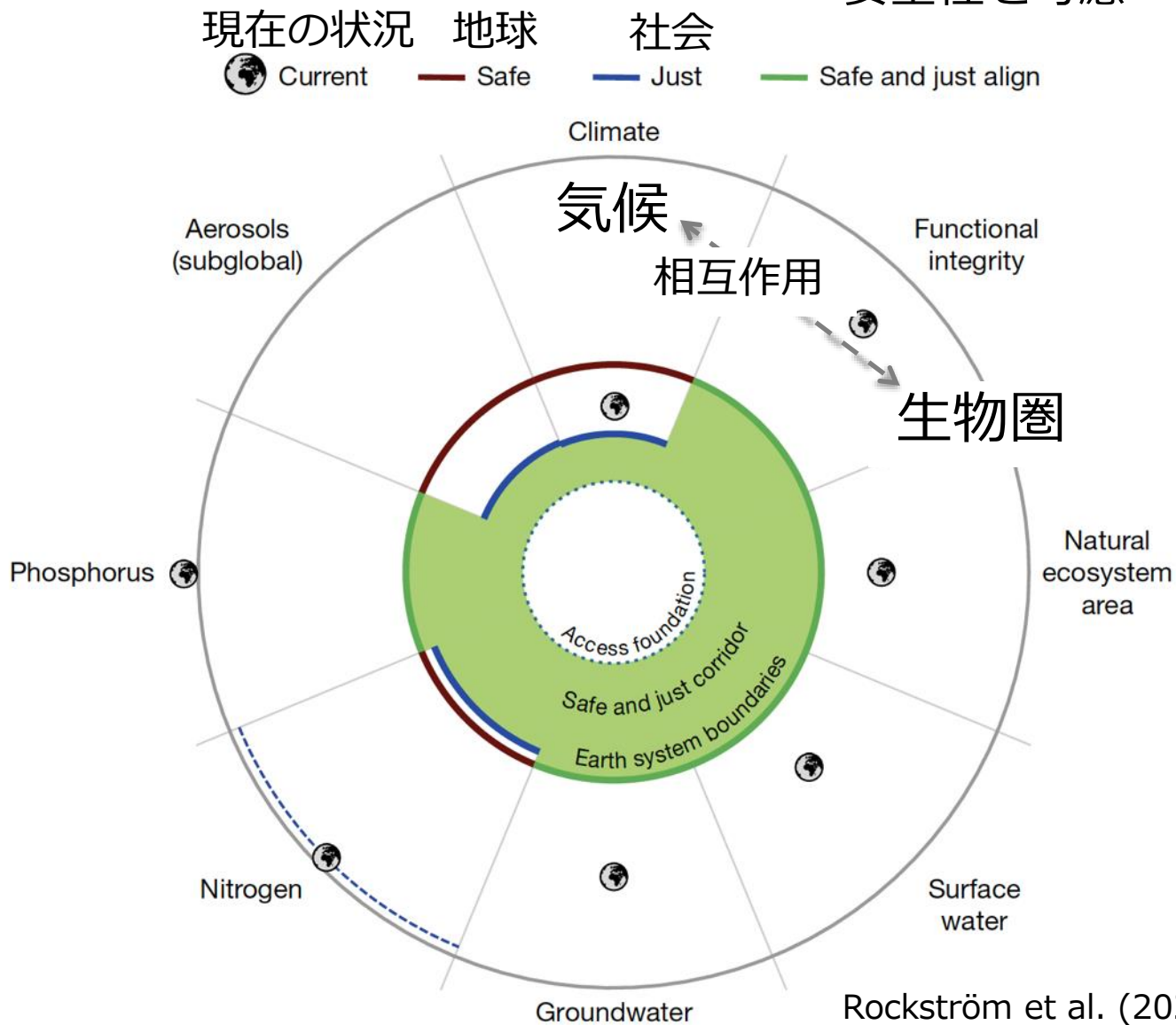
Stockholm Resilience Centre

気候と生物多様性と人間社会の関わり



地球システム・バウンダリー

地球システムと人間社会の
安全性を考慮



2021年6月

IPBESとIPCCが合同ワークショップ報告書を発表



IPBES-IPCC CO-SPONSORED WORKSHOP
**BIODIVERSITY AND
CLIMATE CHANGE**
WORKSHOP REPORT



気候変動と生物多様性は 相互に依存している

- ✓ 人類が住み続けられる気候を維持するための地球温暖化の制御と生物多様性の保護は相互依存する目標で、これらの達成は人々の持続的で公平な福利に欠かせない
- ✓ 生態系の保護、持続可能な管理と再生のための陸域・海域での多くの対策が、気候緩和・適応及び生物多様性目標に向けたコベネフィットを生む
- ✓ 気候変動緩和・適応のみに焦点を絞った対策は、自然や自然の恵みに直接的・間接的な悪影響を及ぼす可能性がある

IPBES：生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム
(IPCCの生物多様性版)

引用元

<https://www.iges.or.jp/jp/pub/ipbes-ipcc-ws/ja>

2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議で採択 昆明・モントリオール生物多様性枠組

2030ターゲット(行動目標)

生物多様性への脅威の低減

1. 空間計画
2. 再生
3. 30by30
4. 種・遺伝子の保存
5. 野生種取引
6. 外来種
7. 汚染
8. 気候変動

持続可能な利用及び利益配分による 人々のニーズを満たすこと

9. 野生種利用の保護・奨励
10. 農林漁業
11. NbS/EbA
12. 都市緑地
13. ABS

実施のためのツールと解決策及び主流化

14. 主流化
15. ビジネス
16. 消費
17. バイオセーフティー
18. 補助金
19. 資金等
20. キャパビル
21. 知識
21. 多様な主体・人権
22. 女性

2030ゴール (状態目標)

A:保全

B:持続可能な利用

C:利益配分

D:実施手段
(資金・キャパビルなど)

2050ビジョン

自然と共生する
社会

2030ミッション

自然を回復の
道筋に乗せる
ために、
生物多様性の
損失を喰い止め
るとともに
反転させるため
の緊急の行動を
とる

違い：ゴール・ターゲットの変更パターン

- 時代の変化で生まれた風潮・新たな概念・ツールが組み込まれた

例)

新

- 生態系アプローチを適用し、**野生種の利用・採取・取引を合法的に行い、病原体のスピルオーバーのリスクを低減**する(T5)

※「ワンヘルス・アプローチ」という文言はターゲットには入らなかったが、セクションCに記載有

旧

新

- 生態系サービスの回復&保護(T14)
→**NbSやEbAを通じた生態系サービスの回復・維持強化**(T11)

旧

新

- 生態系を回復させ気候変動緩和・適応に貢献(T15)
→ **気候変動関連対策による負の影響減、正の影響増**(T8)

新

- **ビジネスセクターに対し情報開示等を奨励**(T15)

生物多様性国家戦略2023-2030の概要

1. 位置づけ

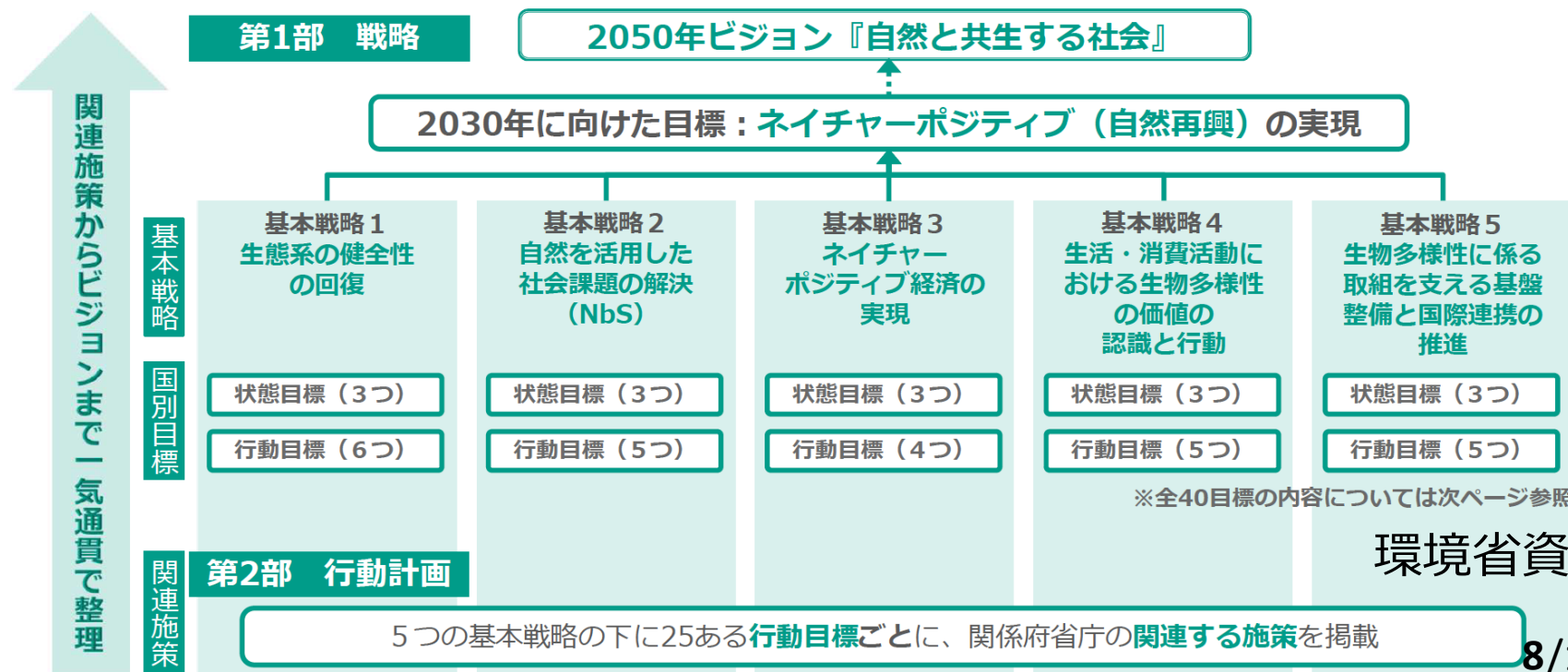
- ・新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」に対応した戦略
- ・2030年の**ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現**を目指し、**地球の持続可能性の土台**であり**人間の安全保障の根幹**である**生物多様性・自然資本**を守り活用するための戦略

2. ポイント

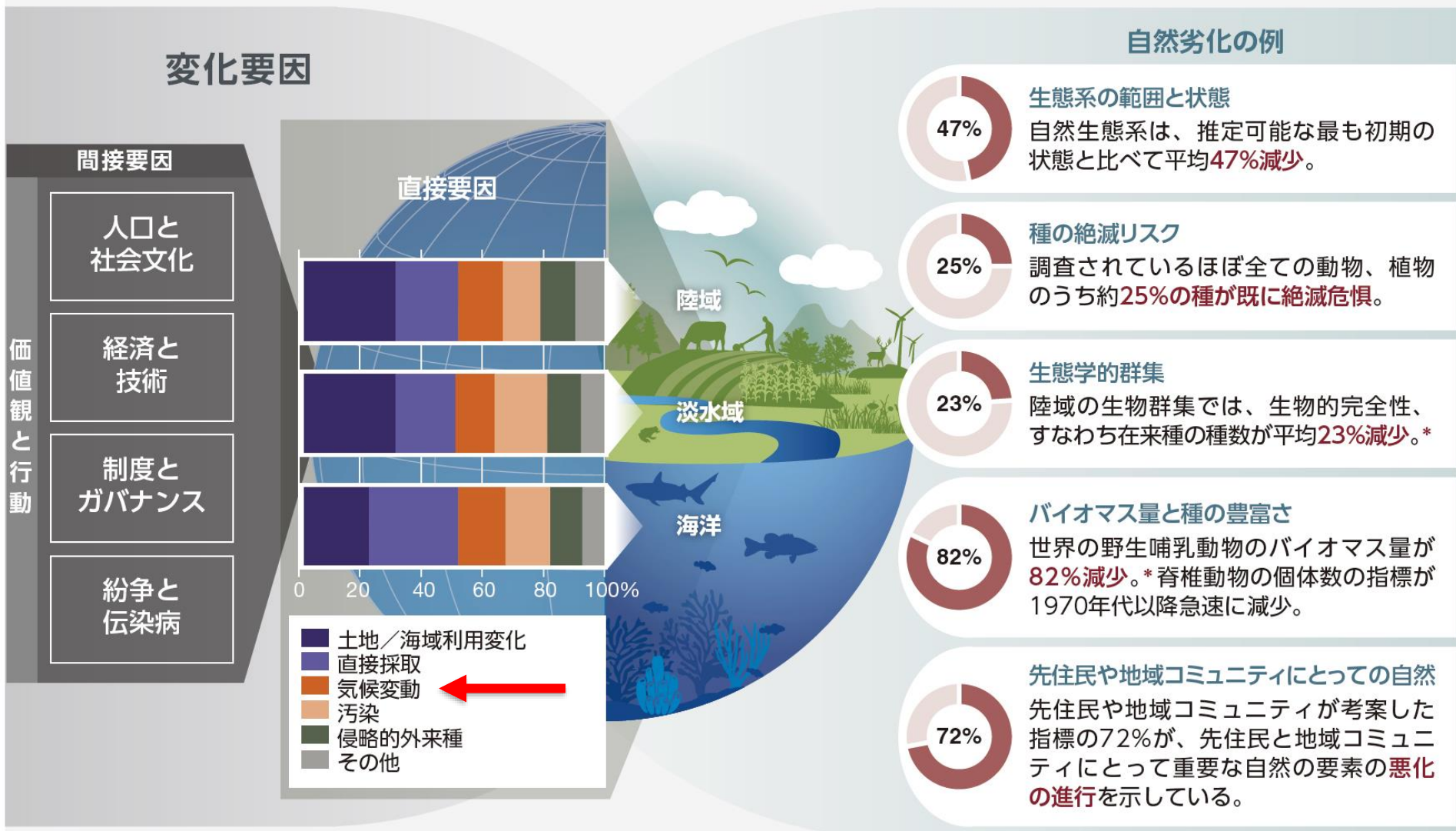
- ・生物多様性損失と気候危機の「**2つの危機**」への**統合的対応**、ネイチャーポジティブ実現に向けた**社会の根本的変革**を強調
- ・**30by30目標**の達成等の取組により**健全な生態系**を確保し、自然の恵みを維持回復
- ・**自然資本を守り活かす社会経済活動**（自然や生態系への配慮や評価が組み込まれ、ネイチャーポジティブの駆動力となる取組）の推進

3. 構成・指標

- ・第1部（戦略）では、**2030年のネイチャーポジティブの実現**に向け、**5つの基本戦略**と、基本戦略ごとに**状態目標（あるべき姿）**（全15個）と**行動目標（なすべき行動）**（全25個）を設定
- ・第2部（行動計画）では、第1部で設定した25個の行動目標ごとに関係府省庁の**関連する具体的施策**（367施策）を整理
- ・各状態目標・行動目標の進捗を評価するための**指標群**を設定（昆明・モントリオール生物多様性枠組のヘッドライン指標にも対応する指標を含む）



気候変動は、生物多様性の劣化をもたらす主要な要因

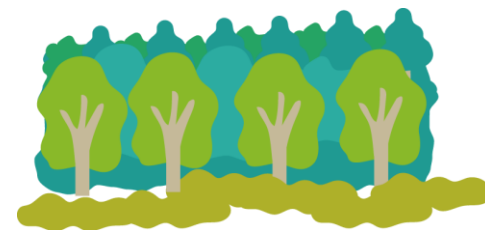


生物多様性は、気候変動に影響を与える

森林の樹木多様性保全による気候変動の緩和

REDD+

途上国における森林減少・劣化の抑制や持続可能な森林経営などによって温室効果ガス排出量を削減あるいは吸収量を増大させる努力にインセンティブを与える気候変動対策



生物多様性と炭素吸収との関連

生物多様性が森林の炭素吸収源としての機能に果たす役割を定量化したところ、地球温暖化を防ぎ、樹木多様性を保全できれば、森林の担う炭素貯留の役割も保全でき、結果として気候安定化をさらに促進できることが明らかとなった
Mori et al. (2021)

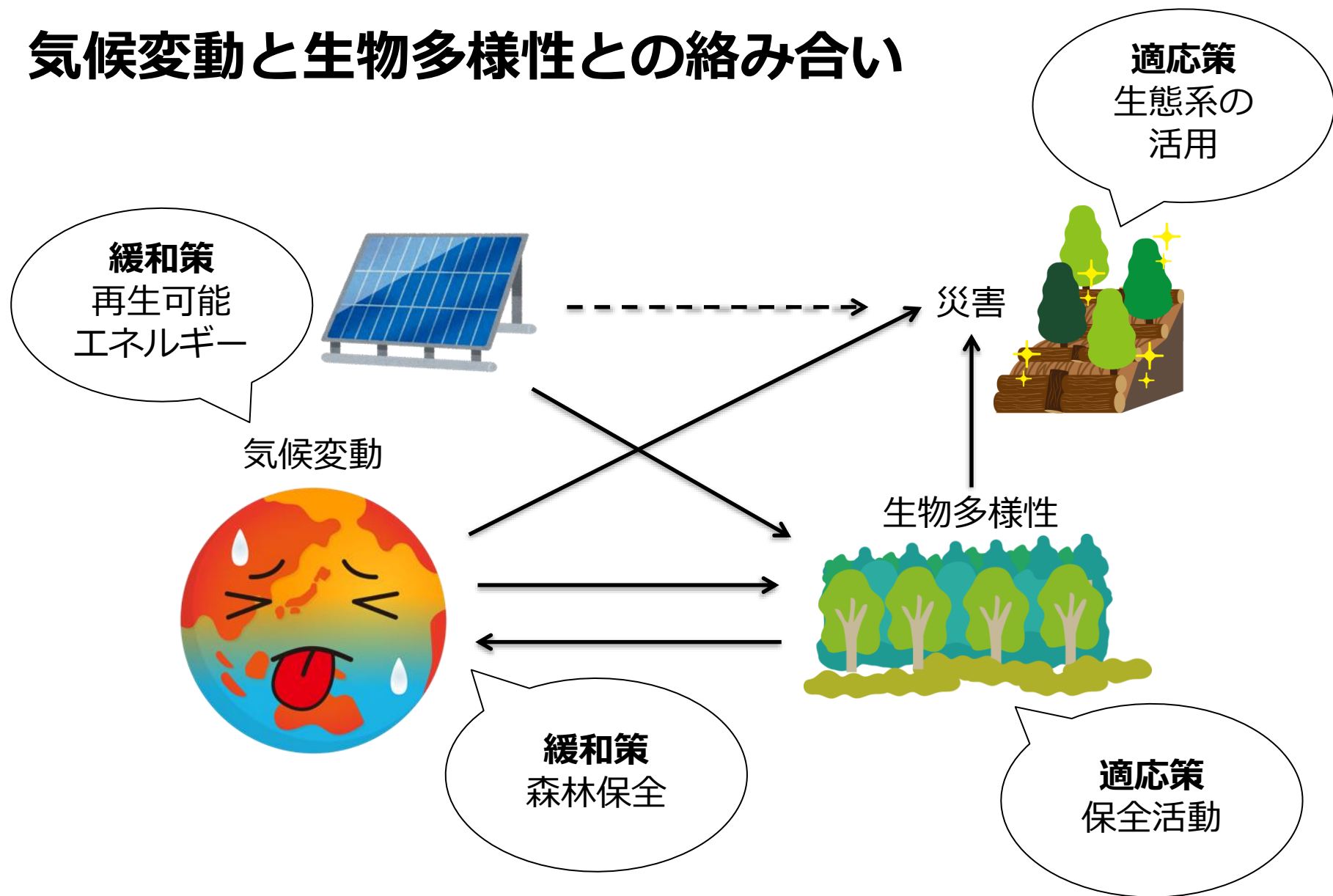
緩和とは？ 適応とは？



人間社会や自然の生態系が危機に陥らないためには、実効性の高い温室効果ガス排出削減の取組を行っていく必要があります。温室効果ガスの排出抑制に向けた努力が必要です。

緩和を実施しても気候変動の影響が避けられない場合、その影響に対処し、被害を回避・軽減していくことが適応です。

気候変動と生物多様性との絡み合い



気候変動と生物多様性は絡み合っている
一方のみを考えた対策ではなく、両方を考えた対策が必要

30by30によるNbS/EbAの促進、気候変動対策



保護地域（オレンジ）とOECD（みどり）でつながる国土の健全な生態系のイメージ

自然共生サイト

- ✓ 民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域
- ✓ 2024年4月19日現在、全国で184ヶ所が認定
- ✓ 環境省による、自然共生サイトとそれらの管理・活用の支援を希望する者とのマッチングあり



つくば生きもの緑地 in 国立環境研究所

【場所・面積】 つくば市、5.1ha

【申請者】 国立研究開発法人国立環境研究所

 詳細はこちら [PDF: 710KB]

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/>